第１回「相米慎二監督映画祭り」開催記録

【青森県　田子町（たっこまち）】

【会場ロビー】

ロビーには、ゆかりの方々から頂戴したメッセージや監督作品のポスターなども飾られ、祭りを盛り上げました。

【トークショー】　相米慎二さんにまつわるたくさんのお話やエピソードが紹介され、来場されたお客様も充分楽しまれていました。

【お墓参り】　映画祭り出演者及び関係者の皆様で相米地区へ赴き、相米慎二さんの眠る墓前で手を合わせました。

【交流会】

映画祭り終了後、「映画監督相米慎二を語りつぐ会」が交流会を催し、出演者・関係者とスタッフらが親睦を深めました。

【新聞掲載】　映画祭り開催について、以下のとおり掲載されました。（朝日新聞、デーリー東北、東奥日報）

ゆかりの地 田子で相米慎二監督映画祭り

名作上映 製作秘話も

大勢のファン懐かしむ

田子町主催の「相米慎二監督映画祭り」が30日、タプコピアンプラザホールで開かれた。町内外からファン350人が来場、「セーラー服と機関銃」の上映とトークショーが行われ、53歳の若さでこの世を去った町ゆかりの名監督が残したヒット作を懐かしんだ。（松本正人）

同祭りは、相米監督の十三回忌を機に企画した初の試み。会場には作品のポスターや台本を展示。佐藤浩一さん、永瀬正敏さん、三浦友和さん、坂上忍さんら、ゆかりの芸能人から数多くの直筆メッセージが寄せられた。

「セーラー服と機関銃」は、主役の薬師丸ひろ子さんの熱演が話題を呼んだ。流行語となった決めぜりふ「カイカン」などハイライトシーンが大スクリーンに映し出され、来場者は懐かしそうに観賞していた。

トークショーは俳優の寺田農さん、脚本家の田中陽造さん、映画監督の榎戸耕史さんが登場。4人で相米監督の人柄や製作秘話を語り合った。

寺田さんは相米監督の全13作中、11作の映画に出演。「相米と一緒に仕事したというよりも、何となく出演して遊んで楽しんだ」と気心の知れた仲をアピール。「映画はみんなで作るんだという気持ちが非常に強かった。酒ばかり飲んで見た目も良くないのに女性にモテたし、あんな監督は他に知らない」とユーモアを交え、会場の笑いを誘っていた。

盛岡市生まれの相米監督は、父の正さんが田子町出身。生涯独身だったため、父の出身地である田子町相米の先祖代々の墓に眠っている。田子町ゆかりの相米監督の魅力を多くの人に知ってもらおうと、町が「映画祭り」を主催した。

「セーラー服と機関銃」の上映後に開いたトークショーでは、映画監督の榎戸耕史さんが聞き手となり、寺田さん、映画監督の冨樫森さん、脚本家の田中陽造さんが相米監督について語った。

寺田さんは「相米監督の自由なところが好きだった。映画はスタッフみんなでつくるんだという意識が強かった。ただ、妥協はしなかった」と話した。

冨樫さんは「大学時代に『セーラー服』を見て、相米さんの助監督になりたくて、この業界に進んだ。私にとってのスター」と振り返った。田中さんは「懐が深く、脚本はほとんど直されなかった。女優の魅力を引き出して撮るのがうまかった」と語った。（柿崎洋樹）

相米作品のポスターやゆかりの芸能人のメッセージを眺める来場者

トークショーで相米監督の人間味を語る寺田農さん

映画づくりに妥協なし

相米監督の魅力 俳優ら語る

田子

「相米慎二監督映画祭り」が8月30日、田子町タプコピアンプラザホールで開かれた。約300人の来場者は、代表作「セーラー服と機関銃」の上映や、親交のあった俳優・寺田農さんらによるトークショーを通じて、田子町ゆかりの相米監督の魅力に触れた。

相米監督は盛岡市生まれ。13作品を世に送り、2001年に53歳の若さで死去した。生涯独身だったため、父の出身地である田子町相米の先祖代々の墓に眠っている。田子町ゆかりの相米監督の魅力を多くの人に知ってもらおうと、町が「映画祭り」を主催した。

「セーラー服と機関銃」の上映後に開いたトークショーでは、映画監督の榎戸耕史さんが聞き手となり、寺田さん、映画監督の冨樫森さん、脚本家の田中陽造さんが相米監督について語った。

寺田さんは「相米監督の自由なところが好きだった。映画はスタッフみんなでつくるんだという意識が強かった。ただ、妥協はしなかった」と話した。

冨樫さんは「大学時代に『セーラー服』を見て、相米さんの助監督になりたくて、この業界に進んだ。私にとってのスター」と振り返った。田中さんは「懐が深く、脚本はほとんど直されなかった。女優の魅力を引き出して撮るのがうまかった」と語った。（柿崎洋樹）

相米監督の魅力を語る（左から）榎戸さん、寺田さん、田中さん、冨樫さん

故相米監督の功績 忘れない

田子町主催、上映やトークショー

「セーラー服と機関銃」や「魚影の群れ」など数々の人気映画を手がけ、2001年に53歳で死去した相米慎二監督の功績をたたえる「映画祭り」が8月30日、監督が眠る田子町であり、町民ら約300人が上映会やトークショーを通して生前の相米監督をしのんだ。

町内に相米家代々の墓があることから、町にゆかりのある監督の功績を後世に語り継いでいこうと町が主催した。上映会では監督が世に出るきっかけとなった代表作「セーラー服と機関銃」を紹介、トークショーには相米監督と長年映画づくりを続けてきた脚本家の田中陽造さん、多数の相米作品に出演した俳優の寺田農さんらが登場した。

制作現場の相米監督について、田中さんは「本の直しは一切なくやりやすかった。甘えられる数少ない監督だった」と振り返った。また、寺田さんは「ふつうの監督ならしょうがないとOKを出すのにしょうがないがない」と映画作りへの厳しい一面を紹介する一方で、「あんなに女性にもてた監督を知らない」とエピソードも披露し、会場の笑いを誘った。

生前の相米慎二監督を懐かしむ俳優の寺田農さん（左から2人目）ら＝田子町